

事業報告書

団体名	留萌地区青少年育成連絡協議会
事業名	令和3年留萌地区「レクレーションゲーム体験会」
実施日時	令和3年12月11日(土) 10:00 ~ 12:00
指導員及び実施場所	<p>指導員：北海道子ども会青年リーダーSUNNY 坂下拓哉 氏 札幌市(北海道立生涯学習推進センター) 津坂雄太 氏 中標津町</p> <p>参加者：天塩町 天塩町ファミリースポーツセンター会議室 苫前町 苫前町公民館 小会議室 留萌市 留萌市役所</p>
内容	<p>1 [アイスブレイク] 自己紹介・じゃんけんゲーム等</p> <p>2 [レクレーション1] 用意するもの空き缶 空き缶積み：制限時間内で何缶空き缶を積み上げられるかのコツや作戦を考え、チーム戦や個人戦で対戦を行った。 また、記録を報告し合い記録更新を目指すなどルールを追加し競いあった。</p> <p>[レクレーション2] 用意するものマジックペンと用紙 お絵描きゲーム：各市町村に講師から出されたお題について絵を描いて表現し、互いに描いた絵のみを見て、お題が何かを回答し合う。 連想ゲーム：講師から出されたお題について各々が思い付くものを絵で表現し、答え合わせを行った。</p> <p>3 [まとめ] 参加した各市町村から1名代表者を選出し感想発表をした。</p>
成果と反省	<p>ZOOMの操作専用の人を各会場に必要だと再認識した。 動きがある内容だと画角内に収まるのが人数によっては難しいと感じた。 人の動きがある場合、可能ならば会場内に数カ所カメラ(PC)を設置し、接続回線を増やせれば、動きに合わせた画角内に収まる回線を見れば、解消すると思われる。</p> <p>1カメラにつき数人を写し出すのは1人ひとりの顔が小さくコミュニケーションを図る上では表情が伝わらず、好ましくなかったため、1人1端末が理想的。 オンラインでレクリエーション体験会の実施は初の試みではあったが、進行役と参加者との会話やタイムラグによる進行の仕方に課題はあったものの、全体を通して参加者の楽しめた様子から成功したのではないかと感じた。今後活用できる可能性が十分にあると思う。</p>

活動の写真	写真の説明
	<p>オリエンテーション</p> <p>自己紹介中</p>
	<p>お絵描きゲーム</p> <p>答え合わせ中</p>
	<p>参加中の様子①</p>
	<p>参加中の様子②</p>